つながる便り

vol.04
2023.11

参政党
板橋区議会議員

坂田れい子

板橋区議会議員になり、あっという間の半年が過ぎました。日々学びの連続ですが、より住みやすく魅力いっぱいの板橋区にしたいという思いで、毎日勉強させていただいています。

7月17日真夏の日、**区政報告会**を開催いたしました。板橋区議会で、どのようなことが行われているかをお話ししました。皆さまと板橋のこと・日本のこと…それぞれの想いを共有させて頂き「板橋から私たちができること」についてを議論することができ、とても有意義な時間となりました。あらためて感謝申し上げます。

常に新しい情報を！

9月中旬参議院会館で、**宮沢孝幸京都大学准教授による「新型コロナウィルスの起源について」の勉強会**に参加しました。勉強会では沢山の学びがありました。専門的で難しい話でしたが、先生の著書を何冊か読んでいたので、理解の助けになりました。復習して活かせるようにしていきます。

参政党議員研修にて
「日本を次世代へ繋ぐ為」日々勉強してます。

イギリスに本部を置くWCHジャパンのセミナーへ
WHOパンデミック条約や
国際保健規則改定の問題提起を

坂田れい子公式HP
https://www.sakata-reiko.com/

参政党HP　X (Twitter)　坂田れい子HP

発行元　坂田れい子事務所
〒174-0071板橋区常盤台1-5-10-401

第3回定例会
9月22日
一般質問について

5月以降区民環境委員会や分科会・本会議等々…議会が行われていました。ここでは、第3回定例会**一般質問**・決算調査特別委員会**総括質問**の報告をさせていただきます。

1．LGBT理解増進法に関わる区の対応を問う

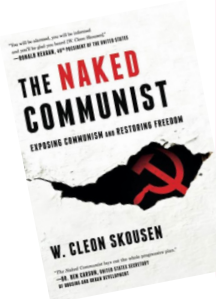
LGBT 理解増進法の背景について

この法案を原点まで遡ると、マルクス主義のフランクフルト学派による「ジョグジャカルタ原 則」の思想から派生し、LGBT に焦点を当てた、批判的人種理論を掲げる団体が、文化・伝統や 家族を破壊する目的で、この LGBT 運動を利用し、世界で広げていると見ています。 米国で共産主義に対抗する為に、元 FBI 捜査官クリオン・スカウセン氏が 1958 年に書いた ※**「The naked communist」**という警告書には、マルクス主義が、文化破壊や、世界浸透するため に掲げた、45 の目標が書かれており、例えば「**報道機関への侵入、言論のコントロール、教育現場への共産主義プロパガンダの浸透、ポルノの奨励、道徳的文化破壊**」などが挙げられています。

実際アメリカの教育現場では、親の知らないところで、教員が生物学的女子生徒「She」を男性 代名詞「He」と呼んだり、**過激な性教育やトランスジェンダー思想など、国民思想を誘導してい る工作も伺え、米国社会に混乱**を招いています。
つまり、この背景には文化マルクス主義の思想があると考えています。
こうした事態に対し、多くの保護者が声を上げ、フロリダ州やテキサス州など、**多くの州で反 LGBT 法が成立**しています。

坂田

都内にある施設で、ジェンダーレストイレが設置されるも、性犯罪増加の懸念等で結局廃止に至りました。今後、区の公共施設の改修工事が計画されていますが、生物学的女性のために「女子トイレ」の設置は**必須**として確保願いたいですが、見解を伺います。



※「The naked communist」

板橋区役所HP　板橋区議会　録画配信動画より

区長

区の公共施設では、関係法令・条例等に基づき施設用途や利用者を考慮して、各種トイレの配置や個数が適正となるよう整備を行っております。今後のトイレ改修工事等では、女子トイレを**廃止**して、性別を問わず利用可能なトイレを設置するような整備は**考えていない。**

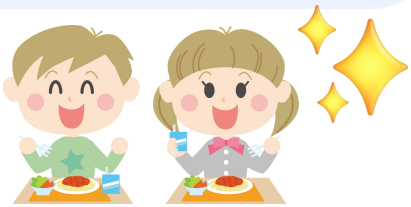
坂田

諸外国では「包括的性教育」として、10 歳未満で性行為、避妊具の使 い方や、「男女のカテゴリーをグラデーション化し、自分の中に男女 両方の性が存在し、自分で性別を選択できる」などの性教育により、 子どもの性自認に混乱をきたし、ホルモン剤の処方や性適合手術への 誘導、増加に繋がっていると、具体的なデータから指摘されております。身体的にも成長過程にある、子ども達のアイデンティティが確立 していない時期には、生まれもった性を大切にできる環境が大事だと 考えており、区民の子ども達に混乱を招かないよう対応を願いたいですが、見解を伺います。

区長

包括的性教育については、国際的な教育の専門機関であるユネスコ が、国際セクシュアリティ教育ガイダンスを公開し、年齢別での学習目標を示しているところであります。区は区民に向けまして、情報誌 において概要を紹介するほか、親子で参加できる性教育セミナー等を実施しておりますが、年齢による段階的な取り組みはしていない。

2．学校のオーガニック給食について区の方針を問う



現在、慣行栽培が主流の日本で、減農薬の野菜を食べられるのはとても貴重なことです。2013 年には、 欧州食品安全機関の「**ネオニコチノイド系農薬の一部が子どもの脳や神経などへの発達精神系毒性 がある**」という見解を受け、**EU は対象となる殺虫剤を禁止しましたが、日本では一部大幅に緩和する傾向**にあります。 2015 年（WHO 傘下の）国際がん研究機関は、特定の除草剤についても、動物実験で発癌性の恐れ があることを発表しました。また腸内細菌、神経系統や生殖器にもマイナスの影響を及ぼす研究が 海外からも多数上がっており、神経毒性が強いことから、**自閉スペクトラム症候群との関係を指摘**する研究者もいます。既知の通り全国的に発達障がいと言われる児童が増えており、板橋区においても、特別支援教室に 通う児童が、2016 年に比べて 2020 年には約３倍に増えています。

フランスでは学校給食は、食材の 50%を有機にする「エガリム法」が適用され、**日本でも**全国で**123 の自治体が、既にオーガニック給食に取り組んでいます**が、オーガニック給食を取り入れた学校では、**アレルギーや病欠が減ったというデータもあり、病気を減らす根本的対策は、正しい食である**と考えています。

坂田

発達障がいや不登校児童増加問題への食からのアプローチ、または健康寿命の延伸へと繋がることの期待を含め、「近隣自治体の取り組みを研究していく」との過去のご回答を踏まえ、オーガニック給食の取り組みについての見解を伺います。

教育委員会

一部の自治体では、有機米や有機野菜について一定割合を使用したり、抗生剤を使用しない飼料の肉を使用したりするなど、様々な取り組みを展開しております。一方、オーガニック食品は、安定供給の確保や一 般の食材よりも高額であるなどの課題もあり、実現可能性について引き続き研究して参ります。

板橋区議会録画配信動画　決算調査特別委員会　令和5年10月20日　坂田れい子

決算調査特別委員会
10月20日
総括質問について

坂田 Q

前回質問のご答弁で、『ワクチン接種に伴う副反応・健康被害に関する情報をHPにおいて区民に分かりやすい情報発信に努めていきたい』と頂いたが、その後の対応状況は？

保健所長 A

新型コロナワクチン接種に伴う健康被害の相談や救済制度申請数など、HPでの公開を準備中、11月初めくらいに公開できるかと。

坂田 Q

新型コロナワクチンによる重い後遺症のある方の救済申請がスムーズにいくように、薬害申請に対応できるヘルパーを設置し、泣き寝入りを作らない体制を整えていただきたい。

保健所長 A

ワクチンにより健康被害を受けた方で、申請手続きでお困りの際には、区民健康なんでも相談にご相談いただきたい。

多文化共生について

実質
移民受け入れ

板橋区の外国人は年々増え続け、
今後も間違いなくその増加が予想されます。

坂田 Q

2000年以上に及ぶ世界最古の日本文化が多文化になることで、将来もたらされる弊害を想像できているのか？

区民文化部長 A

互いの文化の理解不足により、住民間でトラブルに発展する事例を把握している。様々な講座等を実施し、互いに認め合う社会の実現を目指していきたい。

坂田 Q

日本語教室のボランティアの協力などを得ているが、日本語を話せない外国人の何%をカバーできているのか？

区民文化部長 A

ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語の４言語対応による情報提供など様々な取り組みを行っている。外国人行政のニーズを把握していきたい。

坂田 Q

学校の転入手続きなどで、現場をカバーできるコーディネーターの配置が必要ではないか。

教育委員会事務局次長 A

日本語学習初期支援事業・日本語学級の日本語指導・通訳を担う言葉支援人を配置等、外国にルーツを持つ児童・生徒への支援に取り組んでいる。コーディネーターなどのような配置は予定していない。

私は、**「多文化共生」＝実質移民の受け入れ**を推進するならば長い目で将来を見据え、**相当の覚悟と準備**が必要と考えます。現状のままでは、将来困るのは**現場の人間**であり、**地域住民**です。